

自己評価シート【原町住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
□a)、 ☒ b)、□c)	児童館運営指針に基づき、配布物、表示等を作成している。地元公立小学校に配布している月次予定表も、単なる予定表ではなく、子どもたちの様子や児童館の理念を保護者に伝えている。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
目黒区としてきちんとした運営指針があり、国や都、目黒区の方針の変化に合わせて指針自体を定期的に丁寧に見直しを行っている事で、変化する世相に合わせて運営し、周知できている点。	地域との連携はできているが、文言としての理念はなかなか周知し切れていないので、今後は地域懇談会などを実施し、説明等で補っていく。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	年間計画等に、理念と目的が盛り込まれている。
2－1－（2） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☐ a)、 ☒ b)、 ☐ c)	個別の保護者が抱える問題を丁寧にとらえる事や、地域との協働など、必要に応じた対応ができていますが、まだ不十分であると感じている。
2－1－（3） 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) － (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	まず、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止める事を大切にし、そこから他者、仲間への思いやりを伝えるようにしている。朝会、昼会、月一回の職員会議等で、子どもの様子、子ども同士の様子、職員と子どもたちとの関わりを確認している。
2－1－（4） 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
朝会・昼会を必ず実施し、日々の子どもたちの様子をとりえ、皆が共通して適切な対応ができる事。	目黒区児童館運営指針も多岐にわたっている為、ポイントを絞って読み合わせや学習を行い、全職員に丁寧な周知が必要である。

2－2 遊びによる子どもの育成

2－2－（1） 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】	

(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	朝会、昼会、職員会議では、子どもたち一人ひとりの様子を把握、共通して適切な対応ができています。
2－2－（2） 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	利用時間も思いもそれぞれ違う子どもたちが“遊べる”ように、少数派の意見も尊重し、できるだけ皆の願いが叶うような運営を行っている。子どもが主体となり運営するミニイベントも開催ができた。
2－2－（3） 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	日常的に、学童保育クラブ児や1年生から6年生までの利用児童が来館する中で、力の加減や、優しさや思いやりを持てるように、遊びの中で子どもたちに伝えることができた。異年齢集団で一人ひとり皆が楽しく遊べる児童館に向けて前進できた。
2－2－（4） 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点

異年齢集団や、学校が違う子どもたち同士がともに遊ぶことができている。近隣学童保育クラブが積極的に児童館を利用しているので、ますます相乗効果が生まれている。	子どもたち、保護者の価値観も多様化する中で、児童館のような公共の場では最低限のルールを守る事が“皆の楽しい児童館”になる事を伝えていく。
---	--

2－3 児童館の安全管理

2－3－（１） 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
□a)、 ☒ b)、□ c)	「災害時初期対応マニュアル」に基づき、毎月１回避難訓練を実施。避難訓練は地震・火災・防犯と様々な状況を想定して実施しており、消防署や警察の指導も仰ぎながら実施している。伝言ダイヤル訓練や安心でんしょぼとの配信訓練も行った。 朝会や昼会でヒヤリハットの事例を職員間で共有し、再発防止策を職員全体で確認した。
2－3－（２） 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
a)、 ☒ b)、□ c)	訓練の際に消防署や警察署に指導を受けたことに関して、実践や環境整備を行い、子どもたちにとって安心安全な児童館であるように努めている。